

第二部社会人選抜(第2期)

小論文

1. 指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙の所定欄に受験番号・氏名・フリガナを記入しなさい。
3. この問題冊子の不ぞろい等気づいた場合は、手を挙げて監督者に申し出なさい。
4. 解答時間は60分です。
5. 試験終了まで、受験者の退出は認めません。

問題 以下の記事を読んで、問1及び問2に答えなさい。(2問必答)

少子化が止まらない。厚生労働省が2025年6月4日に発表した2024年の合計特殊出生率は、1.15と9年連続で低下し、過去最低を更新した。その要因は未婚化にあるという。人々はなぜ結婚しなくなったのか。識者らに話を聞くと「推し活」などにより恋愛の比重が下がっている状況や、コミュニケーションの変化などが見えてきた。

近年は男女の出会い方が変わってきている。学校や職場での出会いは減り、4人に1人がマッチングアプリで結婚するようになった。変化の最前線にいる大手婚活アプリPairs（ペアーズ）を運営するエウレカ（東京・港）の最高経営責任者（CEO）、山本竜馬氏を訪ねた。

山本氏に恋愛離れが進んでいるか尋ねると「ある種のエンタメと考えると、エンタメの中での恋愛の比重は間違いなく下がっている。誰かの推し活をやっているれば、似たようなニーズが満たせるところがある」との答えだった。

その上で「推し活に熱中していても20代後半になって『リアルな相手がいないと結婚できないんだ』と気付く。ただ、若干、時すでに遅しで結婚できずにそのままという人は増えている」という。山本氏はアプリにとどまらず、オフラインイベントの開催などを通じて「リアルな人との出会いを推進したい」と話す。

若者の意識に詳しいGENCOURAGE（東京・港）代表の桜井彩乃氏も「以前は結婚は幸せの象徴だったが、今は他にも幸せはあるし、推し活があれば十分という人もいる」と話す。「若者にとって結婚はしなければならないものではなく人生の選択肢の一つになっている」という。

相手に出会うためのお金や時間を惜しむ声も多いとし、少子化対策に本気で取り組むならば「若者が直面する生きづらさを全て取り除く意識で取り組む必要がある」と訴える。桜井氏が地方でジェンダーのワークショップを開くと、若い男性も「家の跡継ぎ」といった縛りに苦しんでいたり、仕事との両立に不安を覚えたりしているという。

当事者として婚活をして苦労し、その経験を発信した東京都立大准教授の高橋勅徳氏も訪ねた。高橋氏は「若い世代には、結婚や子育てを考える経済的な余裕がないこともあるだろう。そこに目を向けず、少子化を理由に『結婚するものだ』『結婚はいいものだ』とした風潮があることに反発があるのは当然」と話す。

もし政府が結婚する人を増やしたいのであれば「婚活支援より先に『恋愛してみよう』『結婚してみよう』と当事者が思えるような環境を整えることが必要。若者世代の手取りを増やしたり、長時間労働を改善したりして、余裕を持てるようにすることも不可欠ではないか」という。

家族社会学を専門とする慶応義塾大学准教授の阪井裕一郎氏は、現代の若者たちは「コミュニケーションのあり方が根本的に変わった」と見る。スマホやタブレットが普及しわざわざ人と雑談しなくてもよい時代になった。「人間関係づくりは能動的に『あえてする』ものになってきた。そうすると、面倒を伴う結婚より推し活などリスクが少ない方に流れるのでは」と話す。

そもそも未婚化を阻止しようとすることは、個人の価値観に立ち入ることにならないかという疑問に対し、阪井氏は「結婚も子どもを持つことも個人の自由で、尊重されるべきことだ。それはそうだが、人とつながる価値は、社会を存続する上でも、個人の幸福を考える上でもある」と答える。

スウェーデンやフランスは多様なライフスタイルを重視する国だが、だれかと支え合って暮らすことや子どものケアに関わることには高い価値を置いているという。阪井氏は「日本でもこうした価値を、旧来の女性を抑圧するような保守的な考え方で切り離して再構築し、次世代に伝えていけるかが求められているのでは」と社会に投げかけた。

日本の婚姻件数は2024年は微増となったが、なお年間50万件を下回る水準が続いている。生涯独身で過ごす人が男女とも増加し、生涯子どもを持たない人は先進国で最も多い水準にある。

国立社会保障・人口問題研究所の2021年の出生動向基本調査では、結婚の利点で「自分の子どもや家族をもてる」が減少に転じた。結婚や子どもを持つことを巡る価値観は揺れ動いている。

未婚化の背景に価値観やコミュニケーションの変化があるとすれば、政策として介入したり、すぐに解決したりするのは難しい。ただ、未婚化の進行の末、孤独や孤立に陥る人が増えるとすれば、それはやはり社会の課題になる。

経済面の支援や働き方の改善は絶えず続けていく必要がある。同時に個人や社会は何を大切に存在していくのか、人と人がつながる価値をどう考えるか、といった根本的なところからの議論も必要なかもしれない。

(出典：日本経済新聞2025年6月19日夕刊、一部改変)

問1 近年における少子化進行の背景について、400字以内で述べなさい。

問2 今後の少子化対策について、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

問題はここまでです